

旭中央病院の財政状況

今回は、平成20年度における病院事業会計決算の概要と再整備事業の資金など、旭中央病院の財政状況をお知らせします。

平成20年度旭市病院事業の決算は、病院経営のための収益的収入306億5、194万円、収益的支出302億2、436万円で、経常利益4億2、758万円となりました。

収入の構成比は、主に「入院収益」45%（137億7、641万円）と「外来収益」42%（129億9、318万円）です。支出の構成比では、「給与費」の43%（130億364万円）が最も高く、材料費31%（94億275万円）、経費など10%

Category	Amount (Million Yen)	Percentage
入院収益 (Inpatient Revenue)	137億7,641万円	44.9%
外来収益 (External Revenue)	129億9,318万円	42.4%
一般会計繰入金 (General Accounting Income)	14億8,664万円	4.9%
その他 (Others)	23億9,571万円	7.8%

（30億8、568万円）と続きます。

病院の施設や設備を建設・整備するための資本的収支は、収入2億9、124万円、支出29

Category	Amount (Million Yen)	Percentage
Enterprise Debt	2億5,200万円	86.5%
Fixed Asset Disposal Proceeds	1,592万円	5.5%
Subsidy	2,332万円	8.0%

億5,597万円となり、不足分26億6,473万円は損益勘定留保資金（減価償却費などの病院事業内の留保資金）で賄いました。

資本的支出の建設改良費14億8,582万円は再整備事業や器具備品・ソフト開発費などで、より高い医療を提供するための施設や設備、医療器械の充実が図られました。

今年1月に着工した新本館建設工事は、4月から掘削土の搬出を始め、7月からは基礎コンクリート工事、8月から免震層のコンクリート工事や免震装置の設置を経て、現在、建物1階部分の本体工事が行われています。来年9月には、最上階となる12階までの全容が現れ、外装工事やエレベーターの設置、各種検査などを経て、平成23年3月に完成する予定です。

その後引越しなどを行い、平成23年6月には新本館での診療が開始されます。

再整備事業にかかる総事業費は、320億円に上ります。

資金は病院事業自身の資金をはじめ、国・県からの補助金、200億円程度の起債（借入金）で賄います。

借入先については、低金利で長期借入が可能な、政府系資金を予定しています。年間の返済額ピークは平成29年度の19億円（再整備以前の借入にかかる返

済も含む)になる予定ですが、平成20年度の18億5、000万円に比べ大幅に増えるものではなく、利益・損益勘定留保資金

などの返済原資額を超えるものではないません。

また、返済額の一部については毎年国から交付税措置（返済額の22・5％程度）がされますので、病院の負担は少ないものになります。

旧施設の取り壊しによる固定資産除却（帳簿上の処分）が計上される、平成22年度から24年度の3か年については赤字が計上されますが、以後は引き続き健全な病院経営が見込まれていきます。

63811 (代)

